

「総結集の温習会」

を盛り上げよう

会長 鈴木 精成

例年のこととは言え、暑さが挨拶代わりの話題になった夏が終わり、日常生活に、「涼やかさ」が感じられる季節になりました。
「暮雲収まり尽くして清寒溢る 銀漢声無く玉盤を転ず」(「中秋の月」蘇軾)の一首を口ずさみたくなる候です。
刻の移ろいは早いもので、年間三大行事のうち「昇伝審査」「全国吟道大

岳精流日本吟院

ちよあ

第 4 6 号

平成 2 5 年 9 月

千代田岳精会弘報

平成二十五年岳精流指標

学ぶ

「会」が盛会裡に終わり、残る行事は「温習会」となりました。
「全国吟道大会」では、合吟コンクールで女子チームが第五位に入賞し、千代田の実力を大いに発揮しました。出場の皆様は拍手を贈ります。また大会運営の大事な役割としての「進行係」を十八人の会員の方々に担当していただき、見事にその任務を果たして頂きました。本当にご苦勞様でした。
前述いたしましたとおり、来る十一月十三日(水)に、「千代田岳精会温習会」が開催されることはご承知のとおりです。今回は、初めての企画として、千代田の会員全員が一堂に会する大会とすることになりました。平素交流の機会の少ない教場(含分室、以下同じ)皆さんとの吟詠を通じての出会い、また懇親の大きな輪が広げられることを願っています。今年も五十一名(平成廿四年)と廿五年七月現在の新しい吟友をお迎えしており、教場の活気も大いに盛り上がっております。
「温習会」がこうした新人の皆さんと交え、千代田総結集「の場となるよう期待大です」。

教場の活気を醸成する要素として、教場メンバーの多いことが望ましいとは思いますが、最も重要なことは、自分たちの教場活動を内容的にどのような充実させていくかにあると思います。教場規模の大小はともかく、指導する先生方の指導のための事前準備

はどうか、研修に参加する方々の心構え(「礼」に始まり「礼」に終わる研修姿勢)はどうか、時に振り返ってみたいものです。いくつかの教場では、次回の研修吟を、指導の先生が予め範吟したり、テープ試聴の時間をつくつたりして、「予習」を促しているの聞いています。役割分担による教場参加の意識盛り上げに他教場でも工夫してみたらどうでしょう。

今年も、調布分室と鎌倉分室で「無料講習会」が開催され、所属の会員皆さんの熱意と関係者の皆さんの協力により大きな成果を挙げています。即入会に至った方々はもとより、そうでない方々にも幅広く「漢詩」「短歌」「俳句」等のご紹介を通じて、詩吟との関わり合いの機会をもつて頂いたことは極めて有意義なことだったと思います。千代田としても、今後とも他教場へ発展していければと願っています。

先日、新聞のコラム欄で面白い記事を読みました。日々の暮らしを楽しくするのには、「キョウヨウ」と「キョウイク」だ。「教養」と「教育」と思いきや、「今日、用がある」と「今日、行くところがある」の二つだということです。言い得て妙なりと感心すると、私には、詩吟を生活の中に組み込んで信じたは、これを実践していると確信しました。

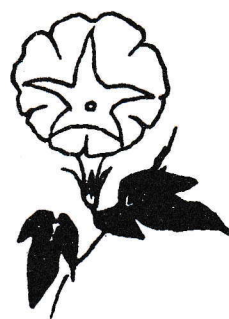
今日も元気に「キョウヨウ」と「キョウイク」を!



全国吟道大会

六月十六日、梅雨らしい一日でした、千五百を超える会員が全国から川崎市教育文化会館に集い開催された。千代田でも、お膝元の会として過去最多の一九四名が参加して、スタッフとしても大会を大いに盛り上げた。合吟で登壇した男子は「早に白帝城を登す」女子は「山中問答」何れも李白作で質量ともに迫力に満ちたものであった。続く合吟コンクールには男女二組が出場、合吟と同じ吟題で挑戦、大舞台で積み重ねた特訓の成果を出し切った。結果は女子チームが五位と入賞牌まであと一步に迫る大健闘であったが、上位は全て女子、吟題は四位まで「白帝城」と片寄りがみられ、今後男子は相当の奮起が求められよう。特別寿栄合吟、男子廿一名、女子三名の廿四名と全体の1/4の人数で登壇。力強く、若さすら感じた。期待の構成吟「英雄の詩」は、横たえて詩を賦す」と題し漢・和の武人の詩十四と、頭尾を伊達政宗作と言われる民謡「さんさ時雨」で飾った他流派ではお目に掛かれない格調高い内容でした。鈴木会長、岩崎常任顧問が教本に無い七言古詩「秋風の辞」漢の武帝に連吟で登壇され、剣詩舞の松尾宝泉氏、小谷野弘泉さんが華麗な舞いを披露された。今年一月新任の家吉幹事長が初めて委員長を務める大会、若い息吹きが随所に溢れた内容であった。若い息吹きが随所に溢れた内容であった。犬飼リーダ

以下以下のスタッフは登壇もせず、舞台袖での大汗の奮闘で見事に取り切り、総本部から高い評価と感謝があった。一日を通した活躍ご苦勞様。



参加者の心に、清々しい感動を残した大会が終了後、初参加の方の感想を頂きました。

全国吟道大会に初参加して

神田 船橋 いね

このたび、岳精流の一員として、全国吟道大会に初出場させて頂きました。出場者が多く、驚きました。今年、一月入会の私ですが、余り緊張もせず合吟「山中問答」を吟じ終えました。日頃の勉強も、親切に教えて下さる鈴木会長、池田教場長はじめ会員全員で教えて頂いた事に感謝しております。幸い、川崎教育文化会館の近くで生れ育った者で、会館の前を通り渡田中学校へ通っていました。これも、ご縁を頂けたと思っております。着物姿も何十年振りでした。朝早くから。着付けの出来る嫁と着付けました。着物の良さを少し知った一日でした。着物の良さを初参加の私を感じましたのは、沢

の吟友と出会い、吟詠を聞き、同年齢の方々が生きいきとしている姿を見たのも良かったと思ひました。入会六か月の身です。呼吸法、一つとつても難しく、漢詩の文字一つ理解出来ませんが、先生の教えを守り努力いたします。全国大会の各地へ行く楽しみも増えました。高齢化社会に、すでに入っておりますが、一人でも多く、吟詠を樂しむ仲間が増えてほしいです。

全国吟道大会に参加して

ハザマ 古谷 嘉臣

感動しました。会場の大きさ、小学生から高齢者まで、皆さんの日頃の練習の成果を拝見して、自分の努力不足を痛感いたしました。運営進行も先輩方の緻密な計画を基に進められ、予定時間内に終了して、来た時には鬱陶しい小雨が降っていましたが帰りは青空も覗き爽快な気分でした。会場を後にしました。

第一部合吟、少人数も大勢もそれぞれ趣があり、迫力がありました。第二部合吟コンクールでは優勝から五位まで女性独占でした。女性チームの美しく迫力ある合吟に聴き惚れました。エントリ―数も九対六で男性は負けています。会場を見渡しても六割は女性のようにでした。吟詠は女性が主役で男性は引き立て役ではないかと自分なりに感じました。会社勤めも昨年暮れから非常勤となり、六廻目の干支も過ぎ萩原教場長に勧められ年初に入会しました。誘い文句が「腹から声を出すので健康

によい」でした。本日、家元横山岳精先生の豊饒たる容姿に接し、なるほど納得致しました。今後ともご指導をお願いします。

吟道大会に参加して

中野 宮野 信子

千代田岳精会女子の一員として、合吟で初めて舞台に立ち、上がり症の私です。が案外胸のドキドキも無く足が震える事も無く吟ずる事が出来ました。プロგრラムも進み「幼少年吟詠」が始まり、小さな子供達も確りと吟じている姿に感心しました。私自身前から剣舞に興味があり、構成吟「英雄の詩」で、映像、ナレーションと始まり、諸先生方の堂々たる吟、剣舞に思わず見入ってしまった。あつと言う間に大会も終わり、帰りに村上顧問に私の娘（中学生）を夏休みに教室に詩吟の見学に来て行ってもいいでしょうかと尋ねたところ、それは大いに結構です。これと言った自分、詩吟を学んで参りたいと思っております。そして何時の日にか、娘と一緒に吟ずる事が出来る日が来るといいなアと思っております。



鎌倉市学習センター漢詩講座

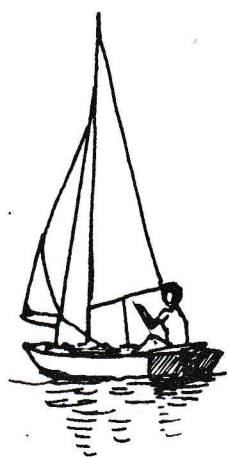
鎌倉市は市民の文化レベルの高い街として知られています。五つある学習センターの一つ玉縄学習センターで鎌倉市生涯学習推進委員をされている学

友秋山武夫氏から「漢詩の講座を企画しているので講師を」との打診が高橋鎌倉分室長へ話が合ったのは年末頃でした。年が改まって企画が具体化し、詩吟「異文化の理解と声だし健康」というタイトルで六月に四回二時間の講座を設定、参加者募集を市の「広報鎌倉」及び生涯学習情報誌「鎌倉萌」に掲載。希望者は往復はがきで申込むことになりました。募集定員廿名で申込者は十三名。これは、岳精流で今全国的に展開している無料講習会とは異なる講座です。初めてのことで、高橋鎌倉分室長と吟詠指導をしている八田副教場長で大筋を決め、配布資料は講師の山口教場長が作成しました。最初に、受講者に自己紹介をお願いしたところ全ての方が初めてでした。声だし健康が応募動機の中なかで高橋毎回、発声練習が始まります。中々出なかつた声も回を重ねて吟らしい声の方もでてきました。終わりに分室見学会の案内を渡し講座は終了しました。

詩吟講座を学習センターで開催 鎌倉分室長 高橋 辰風

学友が鎌倉市の広報誌「萌」に「異文化の理解と声だし健康」と掲載。詩吟講座参加者募集をしてくれました。以前から、会員紹介を頼んでいた話を一気に広報誌で募集してくれました。十三名の希望者があり、六月毎火曜日に玉縄学習センターで開催しました。最初に、私が「詩吟とは」と古代中国で庶民が歌っていた歌謡、また周王朝の楽章が詩経や楚辞に残され、声を出

して歌われていた事。現存の詩の形は漢王朝の成立のBC二百年頃です。唐の時代に律詩、絶句が完成、科挙の試験科目となつて普及し、自然や心情、政治・世情が詠まれ最盛期を迎えたこと等説明しました。本番では、岳精流の概要、発声法や吟詠の基本をしっかりと指導して、詩吟の指導に入りました。一日目「偶成」朱熹、二日目は「早に白帝城を登す」地元の「稲叢懷古」、短歌、俳句にも一日とり、最終日は「不識庵機山を」講師は山口教場長、他鈴木会長、岩崎先生にも来て頂きました。最後まで殆ど欠席もなく、終了後センターでのアンケートでは、講師の熱の入った指導に、楽しく学べた。続けたいと言う方もあり、教場見学で二名の入会がありました。更に数名のかたが見学に見え



財団法人日本吟剣詩舞振興会 全国吟剣詩舞道大会開催

毎年十一月に武道館で開催されて、武道館大会の愛称で呼ばれた合吟コンクール大会が財団の財政面等から断念と発表されていたが、被災地復興支援と高松宮妃癌研究基金奉賛大会として平成廿六年二月廿三日（日）。郡山市、

東日本大会に出場して
ハザマ 中内 博山

向上心を強く抱く事も無くで指導して下さった先生に前向きでないと思われていたかも知れませんが、今後は心を改め、少し貪欲に練習に励み、納得が行くまで現状に満足しない、その積重ねが必要だと感じました。年齢に關係なく失敗は成功の前の一步と考えます。千代田の出吟者三名に対し、鈴木会長、岩崎常任顧問はじめ多くの会員の皆様に応援頂きました。本当に有難うございました。

東日本大会に出場して

東陽町 小林 俊晴

七月十四日、中野ゼロホールで催された平成廿五年度東日本代表選出の地区大会に「少年の部」で初めて出場してまいりました。結果は全国大会には選ばれませんでした。緊張しながらも一所懸命努力して吟じてみました。日頃のお稽古の量が少ないことや技術のこともっと磨く勉強が大切である。今回の出場経験を通過して感じました。これからも頑張つて詩吟を勉強してまいりたいと思います。ご指導よろしくお願ひ申し上げます。



宗家の漢詩「錢ヶ森讃歌」 沖繩・名護市に詩碑建立

平成廿年に、沖縄県名護市の錢ヶ森公園に建立された家元の平和祈念歌碑の傍らに、今度宗家の詩碑「錢ヶ森（じんがむい）讃歌」が建立される事となりました。除幕式は十月廿三日（水）に行なわれます。当日は千代田からも六名の方々が参加申し込みをされております。

錢ヶ森讃歌

横山 精真

水青く砂白うして細波清く
風爽やかに暉弥りて

渚緩やかに横たわる

昔日の劫灰 緑野を蒙り
今時の和氣 朱薨に顕る

観音は澹かに坐して 魂魄を鎮め
夫子は莊かに吟じて 海瀛に対す

佳客凝望して 淵旨を想えば
永えに薫る満苑 万株の桜

「語釈」暉弥り（ひかりわたり）照
り輝く太陽の光がどこまでもいきわた
る 劫灰（ごうかい）戦火 朱薨
（しゅぼう）沖繩古来の朱色の瓦
澹か（しずか）淵旨（ふし）奥深い意味
い（えい）海青く白砂に波清く、風爽か
「通釈」海青く白砂に波清く、風爽か
に陽光みなぎり、かつて戦火は緑豊か
な沖繩を覆ったが、今では平和な気分
が朱色の瓦が見られる。この錢ヶ森に
座す観音菩薩は静かで穏やかな表情で
犠牲者の御霊を鎮めている。家元は沖
繩の海に向かつて戦争の空しさを厳かに
吟じた。ここに佇んで遠くの景色を

眺めながら、平和を祈る人たちが植えた苑いっばいの桜がいつの世までも香りたつていることを思い廻らせた。

平成廿六年度温習会 「躍進千代田 総結集！」

タイトルを「躍進千代田 総結集！」と決めた温習会は、実行委員会が計画の細部検討が進められており、九月の幹事会に提示された上で、プロگرام印刷にかかり、十月早々に各教場へお届けされる予定です。

三十周年を睨み、会員三〇〇名規模の記念大会の予行温習会という位置づけもある今年の温習会は初体験の若手委員で発足、侃々諤々試行錯誤を繰返しながら進められています。今年の経験が千代田の財産として引き継がれると期待しています。

今回の特徴は、今年発足の四プロックがそれぞれの企画でプログラムを組んでいくところです。時間内に全員が登壇するため、独吟が全く無いプロック、構成吟に絞ったプロック。様々で違ったところが面白いと言えましょう。

日時	十一月十三日（水）
会場	北とびあ あすかホール
懇親会	東京都北区王子一―一―
アクセス	同じ会場
地下鉄	JR王子駅北口
徒歩	南北線王子駅五番
	二分

（前号のホール名は間違い訂正します）

今年四月の昇伝審査で、初雅号を取
得された皆さんにそのご感想をお願い
致しました。

漢詩に回帰する八十歳
丸の内第二 古江 孝泉

小学二年生の秋、私は父にお願いし
て書道の稽古を始めた。片仮名、平仮
名が読めるようになったが、読みたい
本を自分で読めるようになりたくて、
書道塾を希望したのだ。父は、非常に
喜んですぐ承知してくれた。翌日、母
に週二回通い始めた。漢字の書き順
を憶える、その意味を教わる、そして
その漢字を使って文章を書いてみる、
その文字が入った熟語を知る、まだ学
校で教わらない文字を新しく覚え、使
い、伝えるこの新鮮さ！日本語が隣
の国と同じ文字を使って表現されてい
る事も、不思議だった。

中学生になってから、漢文の授業が
一番面白かった。漢和辞典を古本屋で
買い求め、漢字一つ一つの字画、生い
立ち、意味、変遷そして応用熟語まで
憶えて、自己流で使ったりした。中学
では英語は敵性語だとして、学校では
学ぶことが無かった。そして漢字も敵
性語なのに、そんな分け隔ては無く母
国語として勉強し、漢字、四文字熟語の
面白さも知ることが出来、五言絶句の
真似ごとをして正月のカルタを作った
りした。

四年前に入会し、今、八十歳の私が
また、漢詩を学んでいる。漢字は美し
い文字だと思つづく。文字一つ一
つを取つても、少年の頃に憶えた意味

だけでなく、使いわけられ表現される
そして、これを詩吟として学ぶように
なつて、また八歳の頃の自分に立ち返
つた。再び学ぶ漢字、字画・意味、声
に出したときの表現の美しさ、新鮮さ
に、初心に帰つて、漢字、漢文と、ま
た仲良く、楽しく過ごしている。

雅号は「碧泉」です
松戸 岩瀬 碧泉

二宮祥風先生の勧誘により岳精会に
入会したのは平成廿一年九月ハザマ教
場松戸分室発足と同時に。爾来はや四年
になります。毎週のように選ばれた漢
詩や詩歌の吟を倣い悠久の詩情に浸る
ことが出来たことは大変有難いことだ
でした。お陰様で詩吟の世界にも漸く少
しは馴染めるようになった様に思いま
すし、今般「初伝」の許証をも戴くこ
とができました。雅号は「碧泉」です
よろしくお願いいたします。

この碧という字は今回の私の昇伝審査
吟「山中問答」出は碧山として出てき
た字で、李白が隠棲した緑ゆたかな山
の意に使われております。杜甫の「絶
句」では江碧鳥愈白、山青花欲然、と
透き通るような清流を写しだしてい
いかにも漢詩らしく印象的です。また
紺碧の空仰ぐ日輪：：今なお神宮の空
によく響く応援歌にも出現。というこ
とで字意が大変気に入ったことから雅
号申請いたしました。

実はこのところ二年に亘り酷い腰痛
に見舞われて吟の教室にも欠席がちに
なつていたので大いに反省していると
あつてこそ可能になるのだと思いま

今後は健康に留意、少しでも詩情豊か
な吟詠ができるよう努力して行きたい
と思います。

すずやかな吟
ハザマ 伊藤 環泉

平成廿一年十月の入会から三年七か
月、近づく昇伝審査に向けて懸命に頑
張る毎日が条件。ただし「すずやかな
吟が聞けるまで」と。そして先達つ
ての昇伝審査によつて初伝の認定はし
ていたたきました。が、許証とは努力し
て欲しいという願いを込めたものと思
つております。いつの日か「すずやか
な吟」を聞いていただける日を夢見な
がら詩吟を追いかける日々です。



雅号「泉」を頂いて
調布 木村 喜泉

入会して三年が経ちました。この間、
家庭や心身の都合によつて半年もお休
みしてしまいました。もう吟に戻る意
欲も薄れてしまい、教本や資料の整理
をはじめました。そんなとき先生から

温かい励ましのお言葉を戴き、吟友がわざわざとお見舞いに来て下さいました。忙しいのに時間を割いて下さったので、すから本当に申し訳なく有難かったです。教室の雰囲気、真剣な発声、朗々と吟じる姿が目につかび、モヤモヤして残りの自分が情けなかつたです。決めた時「泉」を頂けるとの事に吃驚、入会してから年月によるのですから、これから精進せよとの指導でしよう。身に余る光栄と拝受し、気分一新して今年の指標「学ぶ」を目標に参りますので、どうか宜しくご指導下さいますようお願い申し上げます。

雅号「泉」を頂いて
松戸 佐藤 一泉

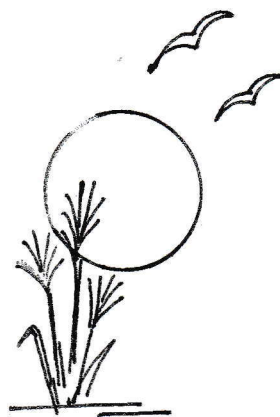
四月に初伝審査を受審し、雅号「泉」を頂きました。四年前の夏、元上司の高橋辰風さんから、九月に松戸で詩吟教室が開設されるのでとお誘いがあり、松戸市民でもあるので承知しました。詩吟は兄が他流派の吟を習っていましたので抵抗はありませんが、習うほどの興味はありませんでした。元上司の顔を立てるべく松戸教室に通っているうちに、歴史に密着した漢詩の素晴らしさ、日本語の美しさ、その詩意に合致した節調にすっかり魅了され、吟の虜になってしまふと同時に、漢詩や吟の奥深さ難しさ（アクセント等）も痛感しました。それから四年が経った現在、二宮先生のご指導宜しきを得ておりますが無器用で鈍感音痴の私は、先生のお教への

通りになかなか吟じられず不甲斐無きと悔しさを噛み締めています。いつもなら嫌気がさし逃げ出しているところですが、吟が楽しくなっています。それは二宮先生始め教室の吟友、そしてよくご指導に来室頂いている鈴木会長、萩原教場長、花山先生、ハザマの方々が私の下手な吟を優しく受け止め、暖かい心で支えて頂いているお陰だと感謝致しております。今は千代田岳精会に入れて貰ったことを幸せに感じております。

有伝昇格メッセージ
新宿 小椋 紹泉

岳精会新宿教場に入会したのが平成廿一年（二〇〇九）五月。それから四年を経てこのたび、めでたく（？）有伝者への仲間入りを許されました。大変有難いことです。なにしろ入会時点で、すでに七十爺であり、ただ今現在では後期高齢者直前の身の上です。これから老年過ぎ、そんな望みなど全くありません。（もしそんな望みを抱いていたとするとなら場「お前馬鹿か」と言われるだけのことでしょう）。わがニッポンの高度成長時代を垣間見てきた世代の一人として岳精会昇進システムはいわばすでに我国には失われ

れつつある年功序列方式が踏襲されており、私にとりましては誠に有難いシステムといえましょう。この昇進システムが適用されていなければ、私は今でも無伝者のままであったことでしょう。私より遙に優れた吟詠の後輩諸兄姉氏が多数いらつしやるのは紛れもなく事実です。かかる諸兄姉達を差し置いて私がこの度、有伝者の一人に加えられることはまことに有難いような申請ないような気持ちです。これからは私なりゆつたりしたりや方々で吟道に勤しむ所存であります。こんなつたない「新有伝者」に対して「受けたお言葉が得られればまことに嬉しい限りです。」



孫のひとこと
丸の内第二 古屋 利泉

丸の内第二支部教場に川口童泉さんの紹介で入会して、早くも四年目になり、未熟乍ら泉の雅号を頂き恐縮しております。何も知らず三年間、会長先生始め、諸先生、諸先輩の吟を夢中で勉強させて頂きました。詩吟とはどういうもの

かも分らず、ひたすら夢中で楽しく新鮮で好奇心一杯に吟に集中して勉強させて頂き、今では無くてはならない生き甲斐です。今後も諸先輩を見習って楽しく吟じてゆけるよう精進してまいります。十四歳の孫が言うのに「年を取るとあれも嫌、これも疲れると止めてしまいうけど詩吟とお店は止めないで」と言われ、改めて頑張ろうと心に決めた次第です。どうぞ宜しくお願いします。

雅号を拝受して
松戸 太郎田 隆泉

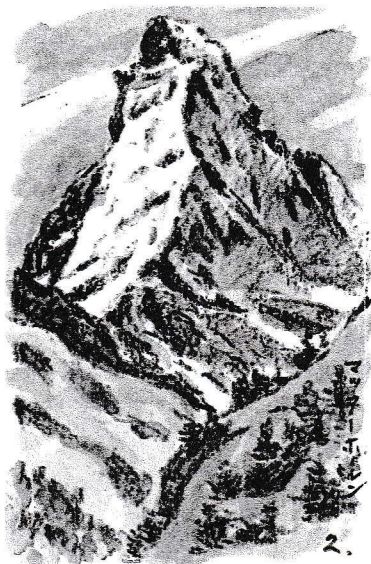
平成廿二年二月に会社の先輩の吉川さんに勧められて入会しましたが、この度、雅号を頂き、生来、音痴で悪声の私が良くここまで続けて来られたものと感じます。鈴木会長、二宮先生始め先輩諸兄の熱心で暖かいご指導の賜物と深く感謝申し上げます。吉川英治の「三国志」を何度も読み返したり「水滸伝」「西遊記」「十八史略」等に胸躍らせて以来、旅行等で断片的に触れ、さらにはそれらを取り入れ、消化し、根付かせて来た日本の歴史の流れも勉強する機会が出来たことを大変うれしく思っております。柄にもなくお利口ぶったことを書きお恥ずかしい限りですが、正直な所、八十間近になって大声を発し、終わってから博学多才な分室長の含蓄あるお話を伺い乍ら一杯やるのも楽しみです。先達達の全国吟道大会での九十六歳の家元の豊饒たるお姿、八十歳を悠々

と超えられた諸先生の朗々たる吟も驚きとともに大きな励みとなりました。発声、息継ぎの基本から詩の内容に基づくアクセントのつけ方等々、課題は尽きませんが、一歩づつ向上するよう努めたいと思っております。何れにしましても、心身の健康の向上（維持？）のためにも出来るだけ長く続けたいと考えておりますので、今後とも宜しくご指導の程お願い申し上げます。

岳精流初伝を頂いて
丸の内第二 本田 親泉

私が現役の頃、最初の東京オリンピック度高度成長期の真っ最中で、東さんに続投を期待する声が大であった。新聞記者は、次の都知事選挙に東さんが立候補するのかがどうか、しつこく付きまとった。昭和四十二年頃、私は秘書の端くれだった。定例記者会見で、同じ質問をしていた。東知事は「笑って答えず、だ」と記者達をはぐらかしていた。後日、鈴木俊一副知事が、後継に立候補することが決まったとき、東さんは「笑って答えずと暗に示したのに、新聞記者は、誰も判らなかつたなあ。李白の詩に『山中問答』というのがある。余に問う、何の意あつてか。碧山に棲むと笑って答えず、心自ずから閑なり。桃花流水杳然として去る。：：：と知っている人なら、杳然として去るを知っている人なら、杳然として去るという私の気持ちがあつたろうか。」と仰言った。あつ！そうだったのか。

私も勉強が足らなかつたと心に刻んだ。それから五十年、岳精流での詩吟のレッスンは、自分磨きでもあると肝に銘じる日々である。「初伝」を頂いて益々の研鑽に邁進したい。ありがとうございます。



マッターホルン（スイス）
星野 久風（清水）

吟上達アラカルト

詩吟と声

詩吟の声は、流行歌等で喜ばれるような美声を必要としません。丹田から生まれる清朗、豪快味のある声が相応しい。また、調子の低い老声、いわゆる寂びこえで吟誦される詩も良いものです。従って生来の自分の声のよしあしを気にかける必要はありません。修錬によつて、清朗豪快な声を出すことは勿論、当代の第一人者になることも不可能ではありません。（佐々木孝吾）

平成廿六年岳精流日本吟院
全国吟道大会刈谷市で開催

皆さん既にご承知の通り、来年度の全国吟道大会は、川崎市教育文化会館改装工事計画があり、会場を三河岳精会のお膝元刈谷市で開催と決まりました。

三河岳精会は、歴史、実績、規模何れを取っても岳精流を嚮導してきた巨大会で、千代田もこれまでその背中を追ひ、沢山のことを学んで参った先輩会です。

毎年、地方から川崎に参加の会員さんには、大変な負担をかけていたと伺っています。千代田では、一〇〇名の参加を目標として、大会を盛り上げたいと考えております。

会場 刈谷市若松町二丁目一〇四

日時 刈谷総合文化センター
平成廿六年六月十五日（日）
九時三十分～十七時

交通及び宿泊

会員年齢を考え、貸切バス、新幹線利用。また日帰りか一泊か、現地の観光を付加するか等、幾つがの案を吟楽部門で企画中です。今から、来年のスケジュールに入れて大勢で参加し、楽しみましょう。
交通費、宿泊費の積み立てを始めた会場もあると聞かれています。



『新会員紹介』

◇丸の内第二支部教場
名倉 隆雄氏（七月入会）

菟場一泉氏が本部教場へ紹介した海老沢明氏の友人で都庁へ長くお勤めでした。近頃声が出なくなつたと思われ、同氏から詩吟が健康に良いと勧められたのがきっかけで詩吟を始めてようと思われたとのこと、お住まいから通える新宿の教室へ入会となりました。

◇丸の内第二支部教場日暮里分室
尾花 栄子さん（四月入会）

還暦を過ぎ、以前から憧れていた剣舞を、北千住教室で金子千峰先生の指導で月二回汗を流して稽古しています。素晴らしい詩吟に合わせて舞う喜びと幸せを今感じております。詩吟も学びたいと思います。金子先生の紹介で入会いたしました。経験も無く何も分らない私です。皆さんどうぞ宜しくお願い致します。

◇丸の内第二支部教場鎌倉分室
八幡 通正氏（八月入会）

六月に鎌倉市で開催され、初めて鎌倉分室で講師を務めた公開講座へ詩吟に興味を持たれて応募、四回皆勤されて終了しましたが、続けて習いたいと教室を見学され入会されました。無料講習会とは全く異なる公開講座の講師という得難い経験から新しい吟友として迎える事ができ大歓迎です。

◇東陽町支部教場
土居 佳代さん（六月入会）

詩吟に興味がありましたので、この春世田谷区民会館で開催の詩吟大会へ参加、会場の後席におられた片

山寿風さんと出会い、五月開催の調

布分室の「やさしい詩吟無料講座」の案内を頂き、早速参加しました。漢詩や詩吟の説明、歴史の勉強、吟じ方等多くの方々と興味深く受けさせて頂きました。これからの楽しい趣味として詩吟もよいと入会させて頂きました。宜しくお願い致します。現在施設の看護師として週三回勤めておりますが、教室を楽しみにしております。

柳 久美子さん（七月入会）

明治安田生命で数少ない女性所長等活躍された現役の方です。今年中に退職予定で趣味を探しておられ、渡邊慎二氏が調布の無料講習会にお誘いのとひろ、大いに関心をもたれ参加され、大変気に入って頂き入会に至りました。カラオケはプロの歌手の指導を受けたほどで、大いに期待しています。

◇東陽町支部教場調布分室
松本 重男氏（六月入会）

六月一日入会させて頂きました。四年前調布分室の開設式に村林さんの紹介で参加しましたが、在職中で今日に至って参りました。今は退職し時間も出来、五月の詩吟講座に二回続けて参加しました。多数の参加者と共に先生方の詩吟講習を聞き、退職後の趣味として習うことと致しました。宜しくお願いいたします。

温 井美智子さん（六月入会）

以前から趣味として詩吟を勉強してみたいと望んでおりましたところ調布市の広報に「やさしい詩吟教室」のお誘いがあり、早速参加させて頂きました。大勢の見学者の方々と一

緒に二日間先生方のご指導を受け楽しい教室でしたので入会させて頂くことにしました。宜しくお願い致します。

野附 晴子さん（六月入会）

入会の動機は調布市の広報に「詩吟教室へのお誘い」があり、その教室に参加したことでした。声は中々出ませんが詩吟の雰囲気が好きでした。立派な教本を頂いて、先生方も親切にご指導され、お世話になることにしました。今後とも宜しくお願い致します。

中根 三枝さん（六月入会）

姉の高橋登喜が調布分室にお世話になっておりますが、今回新しい方向けの詩吟講座が開催されると姉から参加の誘いを受けました。日頃姉も詩吟には熱心ですが、講座もやさしく丁寧なご指導でした。入会してお世話になることと致しました。今後共宜しくお願い致します。

石川 美紀代さん（五月入会）

大藤征子さんの紹介で入会致しました。定年退職後も毎日慌ただしく暮している中に、古の漢詩に向き合う一時は学生時代を思い出す一方、心の安らぎと共に高揚を覚えます。小林先生の魅力も分室に通う力になっていきます。大きな声で、積極的で若々しい心をお持ちで、お会いするのが楽しい心になります。長い修養が必要とされる詩吟ですが、焦らず勉強させて戴きたいと思っております。

矢崎 晴男氏（三月入会）

清水教場中野分室
退職して三年が過ぎ、以前からの

ゴルフ仲間の森坂、湯浅両氏のお誘いで入会しました。清水教場中野分室を見学して、先生方、また会員の皆様の明るく楽しい雰囲気の中でも大変真摯に詩吟を学ぶ姿勢に感銘を受け、初心者ですが、今後とも詩吟を通して更に「礼・節」を学びたいと思います。宜しくお願い致します。

長部 君恵さん（六月入会）

私は小林公山志茂分室長に元気で明るい声で詩吟の稽古を勧めて頂き入会致しました。教室の正しい規律と皆様の心やさしさで頑張ります。また、ご熱心な先生方のご指導を賜り、詩吟の素晴らしさを身体で実感している次第です。

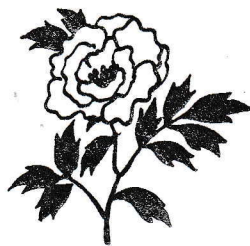
中川 ハザマ教場新陵分室
寿一氏（七月入会）

中学生の頃、住職兼業の恩師から「詩吟は詩情を唸れ」と荒っぽく教わって以来、漢詩好きになり、朗々とした吟詠に憧れておりました。港区大会四位の親友宮野君の吟詠を聞きに教場に伺った時、鈴木会長の迫力と優しい指導、練習熱心な雰囲気

鶴岡 三子さん（五月入会）

昨年、鎌ヶ谷コミュニティセンターの祭りに参加し詩吟、剣詩舞をやった中、短歌、俳句を吟じた事で興味を示して下さいました。その方が入会して下さいました。その中の一人鶴岡さんが本部会員として正式に入会登録になりました。鶴岡さんは新舞踊の師匠さんでもあります。

◆八尾 葉風氏（東陽町休会中）
八月十八日逝去されました。享年七十九歳、千代田草創期から役員として発展を支えられました。ご冥福をお祈りいたします。



編集後記

猛暑と集中豪雨、熱帯地方の様な夏でした。前例の無いという荒々しい気候は四季の移ろいが、日々の生活と繋がっている日本としては違和感を覚えています。

六十八年前、昭和廿年の夏も暑かった記憶があります。六日広島、九日長崎に原子爆弾が投下され、十五日ボツダム宣言を受諾して日本が敗れ、国民は茫然自失の夏でした。

猛暑の中で行なわれた広島・長崎の平和祈念式典は被爆者の方々には、不安と苦しみの日々が続いていることを忘れっぽい国民に思い出させてくれました。

我々は、広島・長崎・福島を忘れることなく、ささやかでも助けになることを日々の暮らしの中で積み重ねていきたいと思えます。今号も、沢山の方々にご寄稿頂きました。有難うございました。（八田）